

国松石材株式会社

発行所 / 国松石材株式会社

創業地 福岡市博多区下呉服町8-35
 平尾店 福岡市中央区平和3-12-27(平尾霊園下)
 TEL 092-401-4194 / FAX 092-401-4189
 工場 福岡市東区松田3-16-12
 TEL 092-629-1189 / FAX 092-629-2043
 ホームページ <http://www.kunimatu.com>

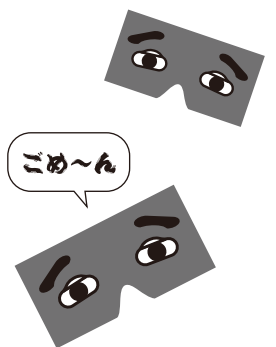
松ぼっくり

2009年 秋号

携帯電話のバーコード読み取り機能で「この図」→
 を撮影すると、携帯版ホームページ内の会社概要
 から、地図をご覧ください。



博多の芝居と博多にわか



博多は芸どころと言われます。芝居、博多にわか、筑前琵琶、博多独楽、松囃子、どんたく、挙げればきりがありません。

なかでも芝居と博多にわかには博多を代表するものです。

【博多の芝居】

博多で始めて芝居が行われたのは、出雲大社の巫女のお国が、歌舞伎を始めてから七十年過ぎた寛文十年（一六七〇年）十二月です。

芝居という言葉は、現在は、歌舞伎などの演劇をさしますが、もともと芝が生えている場所の意味で、神社やお寺の庭で演じられるものを、観衆が芝生に座って見物したことをさしました。ですから、江戸時代は、相撲や踊りも相撲芝居、踊芝居と言っていました。

博多で大きな芝居小屋と言えば、「博多座」が挙げられます。下川端に現在の博多座が誕生して今年で十年になります。

十月の歌舞伎は、十一代目市川海老蔵が博多座十周年の記念公演として、通し狂言「雷神不動北山櫻」（なるかみふどうきたやまざくら）を演じます。



◇博多座十月公演
 『雷神不動北山櫻』より

市川海老蔵と博多との縁は深く、博多の演劇の大成に、海老蔵の名前は欠かせません。

文化・文政期（一八〇四〜一八三〇年）、江戸時代の文化は、最高の円熟期となります。中洲の中島新地も、江戸千両役者市川海老蔵（七代目市川團十郎）を迎えるに当たって、芝居熱は最高潮に達していました。天保五年（一八三五年）、海老蔵は大阪で開演し、さらに下関で公演ののち、博多入りします。年は四十四才、役者として脂の乗り切った時でした。
 海老蔵の博多来演に際し、中島新地にあった小屋は拡張されます。

一座の顔ぶれば、市川海老蔵を筆頭に、中山新九郎、嵐三右衛門、市川升五郎など。成田屋の三升（みます）の定紋もあざやかに、柿色の袴（かみしも）に黒羽二重の重ね着、花かごにゆられての海老蔵の博多入りには、前後に博多芸者が付き添い、一目、千両役者を見ようと野次馬も加わって、博多の町は時ならぬ賑わいとなりました。



◇博多川での博多座『船乗り込み』の様子。毎年五月末に行われる、博多の風物詩です。

現在では、毎年五月末に、歌舞伎役者が船に乗り込み、博多座側の博多川を下る「船乗り込み」が行われます。これは、全国の歌舞伎ファンが集まる博多の風物詩となっています。

江戸時代から明治時代まで、芝居は早朝開演し、夕刻に終わるという長時間公演でした。観客は、弁当持参で、観賞するのを楽しみとしました。

明治時代、博多には、東中洲を中心に博多座、明治座、九州劇場と呼ばれる十件程の芝居小屋が存在しました。

そこでは、今と変らぬ華やかな芝居が上演されていたことでしょう。

長い芝居の歴史を持つ博多の地で、一代目市川海老蔵の歌舞伎を観賞してはいかがでしょうか。

※掲載の写真は博多座よりお借りしました。ありがとうございます。
参考文献「博多風俗史」井上精三著

七代目市川團十郎博多来演の碑

市川海老蔵（七代目市川團十郎）の博多来演から百四十年後の昭和四十八年五月二十六日、中洲中島町中島公園の北の一隅に「七代目市川團十郎博多来演の碑」が建立されています。
弊社がその施工をし、除幕は十代目市川海老蔵（現十二代目市川團十郎）の手で行われました。



【博多にわか】

博多のおみやげで有名なのが二〇加煎餅です。赤い四角の紙に目だけ穴を空けて、遊んだ記憶もあることでしょう。

にわかとは、その場の思いつきで行われ、しかもそれが、人を喜ばせ、笑わせる即興的な芸能です。言葉の由来は、庭神楽（にわかぐら）がまったものは、大阪堺の二羽屋嘉平次がはじめたので二羽嘉（にわか）となったなどの諸説があります。

即興的に演じた滑稽やおどけが、にわかと呼ばれるようになったのは、享保（一七一六〜一七三五年）頃からです。にわかには、江戸時代全国各地で盛んになり、それぞれ独特のものとなって、その土地の風土に合わせたものに変化していきます。

博多や大阪でにわかには、演劇的なものに発展していきましたが、江戸の吉原では、女郎の行列をにわかと呼びました。

大阪にわかには、明治三十六年に喜劇と呼ばれ、現在では、藤原直美の松竹新喜劇に受け継がれています。

博多では、正月十五日の松囃子の中で、悪口や皮肉、政治批判が行われました。しかし、年一回では物足りなく、お盆にも行われるようになります。顔をかくし、風刺や洒落、悪口を言ってお盆を笑わせるようになり、これをにわかと呼ぶようになりました。

にわか演者は、寛政（一七八九年）頃から黒ご（芝居の後見がつけている顔の前に垂らした黒い布）で顔をかくしていました。黒ごが半面になった時期は定かではありませんが、顔を隠すことによって、思っていることを言え、悪ふざけもできます。この伝統が残っているのは、現在は博多にわかだけです。

仮装やおどりのにわかには、天保の頃に口になかとなり、明治になると次第に演劇の形に変わっていきます。商人の主人や職人などが、組と呼ばれる素人劇団を作り、お盆の十六日から五日間は、福博の町はにわかのお話でもちきりとなります。

明治時代の終わりになると、お盆に限らず、人を集めたい時に、必要な場所に舞台ができます。

大正時代には、専門ににわかをする職業にわか師が誕生しました。

そして、平成十四年三月四日、博多仁和加は、福岡市無形民俗文化財となります。

このような時代を経て、今年も「博多盆仁和加大会」が八月二十三日福岡中央市民センターで行われました。

今年の課題は「衆議院選挙」でした。投票目前ということもあり、会場は、熱気と笑いに包まれたそうです。

年末には、新天町時計台サンドームにて「年忘れにわかライブ」が開催され

ます。

この機会に、博多ことばの面白さや、言葉を締めくくる「落」おとしのうまさを楽しんではいかがでしょうか。

先祖の供養のため、お墓ば作って貰いたかとはばって、石あ自分で選んで良かとかいな？

よござすクサ。
国松石材じゃあ
お客さんの意思（石）ば大事いします。



にわか作者：
博多にわか振興会所属
松崎真治さん

※にわかの記事は、数多くありますので、ひらがな表記しています。
※参考資料は、博多仁和加振興会にご協力いただきました。ありがとうございました。

参考文献「はかたにわか傑作集」井上精三著



Begin's

新しい仲間の紹介

begins-club.jp

検索

URL http://www.begins-club.jp

●ビギンズ倶楽部名称

『WILD JOHNNY RIDERS』

●主な活動内容

ハーレーダビットソンとソウルミュージックをこよなく愛するツーリング倶楽部&ライブバンド

●紹介コメント

会員は団塊と呼ばれる年齢層が中心ですが、個々のルックスとキャラクターで若さを発揮しています。ハーレーでのツーリングはセイフティ&マナーを信条にドライビングを楽しみ、バンド活動は週末の夜に当倶楽部の事務局長の店ライブ・バー『BLUE SUEDE SHOE』に集まりソウルミュージックを満喫しています。バンド名は元祖博多めんたいロックス『バイキング』です。

●活動日時

ツーリング／毎月1〜2回

※雨天の場合中止

ライブバンド／木、金、土曜日

夜六時半頃から十一時の間で楽しんでいきます。ライブの見学もできますので興味がある方は見に来て下さい。

●会員数

十名



ライブ活動拠点 『BLUE SUEDE SHOE』

WILD JOHNNY RIDERS

W. J. RIDERS

ハーレーダビットソンとソウルミュージックをこよなく愛するツーリング倶楽部&ライブバンド 『WILD JOHNNY RIDERS』です。会員.....



バイキングのメンバーによるパフォーマンス！

さあ、あなたも！この機会にビギンズ倶楽部に登録してみませんか？

●ビギンズ倶楽部のホームページ

URL : <http://www.begins-club.jp>

【会員登録のお問い合わせ】

会員登録やホームページの作成は、国松石材がお手伝いいたします。お気軽にご連絡下さいませ。

●電話番号

092-401-4194

●担当

高田／小田まで。

I-COMPASS

お墓づくりの羅針盤

＜アイーコンパス＞

＜イメージチェックシートの作成＞

お墓づくりって何から始めたらいいの？と疑問に思う方は多いはず。建立場所、建立時期、石種、予算など、これらも大切な要素ですが、その前にもっと『大切なこと』考えてみませんか？

大切なこと：それは『想い』。想いから始めるお墓づくり、なんだかおしゆれな感じがしませんか。といっても、想いは人それぞれ。ご主人様の想い、奥様の想い、お父様やお母様の気持ち、お子様たちやご親族の考え、なんだからとまらない...

そんなときに頼ってほしい、お墓づくりの羅針盤

＜通称：アイーコンパス＞

羅針盤は、心の中に眠っている祈りのカタチにふさわしいお墓づくりのイメージを探し出してくれます。その方法はいたって簡単。お墓づくりで大切にしたいことについて、インタビュースシートに記入するだけ。質問はたったの三十一問。あとは専門スタッフが、パソコンへ入力・解析にかけて、イメージチェックシートを出力します。

ぜひ、国松石材平尾店にて体験してみませんか。また郵送での受付もしておりますので、まずは一度お問い合わせください。

親孝行な人、家族を大切にしたい人。そういう人に相応しい、包容力のあるお墓ができればいいと思う。

いつも家族を想っている。いつも家族と一緒に笑っている。優しく、そして変化のある人でした。家族がいつも一緒にいることの大切さを教えてくれました。生きる道も、家族の中に示してくれました。そんな人柄にまき子を語り継いでお墓になったらいいと思う。

イメージチェックシート

筆文字

- ご覧の実物葉書を抽選で1名様にプレゼントいたします。
返信用ハガキにご希望の旨をお書き添え下さい。
(作品の転用・転売はお断り申し上げます。)
- 家名・好きな言葉を揮毫^{きごう}して墓石や石碑に彫刻しております。ご用命の際は、担当のお客様係までご相談ください。

作品#002 『風』

「色なき風」という言葉をご存知でしょうか。季語としても使われる「秋風」の別名です。秋は葉も色づき空も美しいので、紅葉や夕焼けの色である赤や茜色を想像します。でも中国の思想で秋は白。色のないものに色をつけるという風流な言葉です。色がいないということは、どんな色にも変えられるということです。

秋という白い季節の風に包まれながら、自分自身と向き合ってみるのもいいかもしれません。



夏から秋に変わる時の不快感がない気持ちよいのびやかな風、秋から冬に変わる時の澄んだ空気を運んできてくれる風を表現しました。

●作家プロフィール：橋口 由佳（製品課文字担当）



- ・宮崎県生まれ。福岡で育ち、4才から習字教室に通う。
- ・福岡県立太宰府高等学校芸術科にて本格的に書道を学び、各競書大会にて入選、入賞を果たす。主な受賞に、第43回全国学芸科学コンクール入賞、第12回柳川市総合美術展奨励賞、第22回千字文大会文部大臣賞などがあり、第1回全国高校生美術祭実行委員長賞ではオーストラリアへ招かれる。
- ・立命館大学書道部にて活動後、現在は福岡にて創作活動を続けている。
- ・2006年1月、国松石材（株）入社。製品課文字担当として、石碑の文字を作成。お客様のご要望によって揮毫を行っている。
- ・お知らせ
「日本の美を伝える和風年賀状素材集『和の趣』寅年版」（技術評論社出版）に橋口揮毫の文字が掲載されることになりました。「筆文字」の項目に1ページ16種類作成し、可読性とデザイン性のある文字に仕上げました。11月頃には全国各書店に並べられますので、ご興味を持たれた方はぜひ一度ご覧になって下さい。

三丁目の 徒然日記

Vo.2

六月に植え替えをした花壇の中に、朝顔と向日葵^{ひまわり}がありました。六月といえば梅雨の季節。まだまだ小さな苗木たちが、ゲリラ豪雨に打たれてクタツとした日もありました。はたまた雨上がりの晴天のもと、グングン芽吹く様子に感心したり。安堵も束の間、若葉にたくさんのお虫食いを発見！等々そんなこんなでハラハラと成長を見守る毎日。（もちろんお仕事の間は傍らですよ。）

じゅつと長い梅雨の間、夏を代表する朝顔と向日葵の成長は、たくさんのお草花の中でもひととき待ち遠しいものでした。

ぜひとも種まで収穫して、また来年も栽培したいものです。お近くにお越しの際は、展示場はもちろん、ついでに花壇ものぞいてみてくださいね。

おかげさまでこの九月、この松ぼっくり新聞が皆様のお手元に届くころ、わたくしども国松石材平尾店は一周年を迎えます。

残暑厳しいこの季節ですが、どうぞお健やかにお過ごしくださいませ。

旅の香り 時の仕事

第2回

続『インド研修』の巻

今回はサーンチーの大ストウーパをご紹介します。ストウーパとは、古代インドで土饅頭（覆鉢）型に土を盛り上げたお墓です。日本では卒塔婆と書き、またパーリ語ではトウーパといい、塔婆や塔と略します。

ストウーパは、仏陀やその弟子など聖者の記念のため、遺骨、遺髪、所持品などを埋めて土を盛り、表面をレンガや石で固めて構築されています。

中でもサーンチーのストウーパは有名で、最大規模を誇る第一ストウーパは、覆鉢の高さが、十六メートルにも達します。



◇大ストウーパを囲む欄楯と塔門

ストウーパの構成は、覆鉢を中心に周囲を欄楯（らんじゆん）（ヴェーディカー）という玉垣が囲んでいます。そして東西南北それぞれに、日本の鳥居にも似た塔門（トーラナ）が設けられています。塔門に施された石のレリーフ彫刻は、インド古代美術の精華であるとともに仏陀の教えを絵解きする石の絵本でもあったそうです。



◇塔門に施された石のレリーフ彫刻

サーンチーには、この他にも第一ストウーパを中心に多くのストウーパや寺院、僧院が残っており、世界の仏教徒にとって貴重な聖地のひとつとなっています。

石屋の良心。
お勧めします！

No. 2

『古刹めぐりのススメ』

弊社には、去る五月十一日〜十三日の三日間で、奈良の歴史的石造物を巡る「奈良研修」に参加した社員がいます。報告の資料集を見て思いました。

「歴史的石造物ってカッコイイ！」

まずは、講師を務められた石造物研究家・山川均氏の書籍をご紹介します。

『石造物が語る中世職能集団』／

著：山川均（奈良県郡山市教育委員会・文化財研究主任）／出版：山川出版社・・・平安時代末期、平家の南都焼討ちによる東大寺などの大寺復興のため中国から渡来した石工の子孫は「伊」姓を名乗り、大和を中心に多くの優れた石造物を残しました。また、その分流は「大蔵」姓を称し、鎌倉や箱根に活躍の場を見出しました。

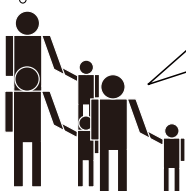
この本は、彼らの活躍ぶりをその作品と共に追っていくものです。

最初に中国から石工を招致したが、東大寺大勧進の重源という高僧とされます。一流の石工が活躍する背後には常にその時代を代表する高僧がいました。石造物を通じて垣間見ることが出来る当時の仏教社会の一端にも触れてみてください。

文化の秋と申します。古都の歴史的石造物もさることながら、ここ九州博多の地にある古刹をめぐり、名だたる石造物に触れる小旅行を楽しんでみてはいかがでしょうか？東長寺の五輪塔、承天寺の石庭なんておススメです。



『石造物が語る中世職能集団』を3名様にプレゼントいたします。応募方法につきましては、松ぼっくり返信ハガキをご覧ください。



お墓も地震に備えましょう。近年度々起こる天災に、免震施工で安全強化!!

免震施工のご提案

福岡西方沖地震の復興経験を活かし、
国松石材従来の耐震施工を独自改良しました。



お墓を **点検**
してみてください!

- ✓ 仏塔にずれが生じた
- ✓ 外柵が倒れそう
- ✓ 今後の地震に備えたい

◆1.1 尺型仏塔の免震補強価格例

【使用するもの】

- ・免震棒 (1本)
- ・ステンレスダボピン (1箇所)
- ・ブチルゴム充填剤 (必要量)

【作業内容】

- ・仏塔の一時解体
- ・仏塔への穴加工
- ・免震棒取付け
- ・再設置

¥89,250-
(税込)

＜仏塔免震補強＞ ●ステンレスダボピン

仏塔の免震棒だけでなく、上台と下台の中間部にステンレスダボピンを差し込み補強します。慣性力(水平方向)変位を防止するための処置。ダボ穴の加工は高い精度を要します。

●免震棒

仏石と上台の中間部に『免震棒』を差し込み、コア抜きされた穴にブチルゴムを充填。その粘着力と共振を吸収する弾力効果により、水平・垂直方向への安定性の向上をはかります。



●ブチルゴム

優れた弾力性のあるシーリング剤を充填



＜地盤強化＞

●配鉄筋 & ベタ基礎

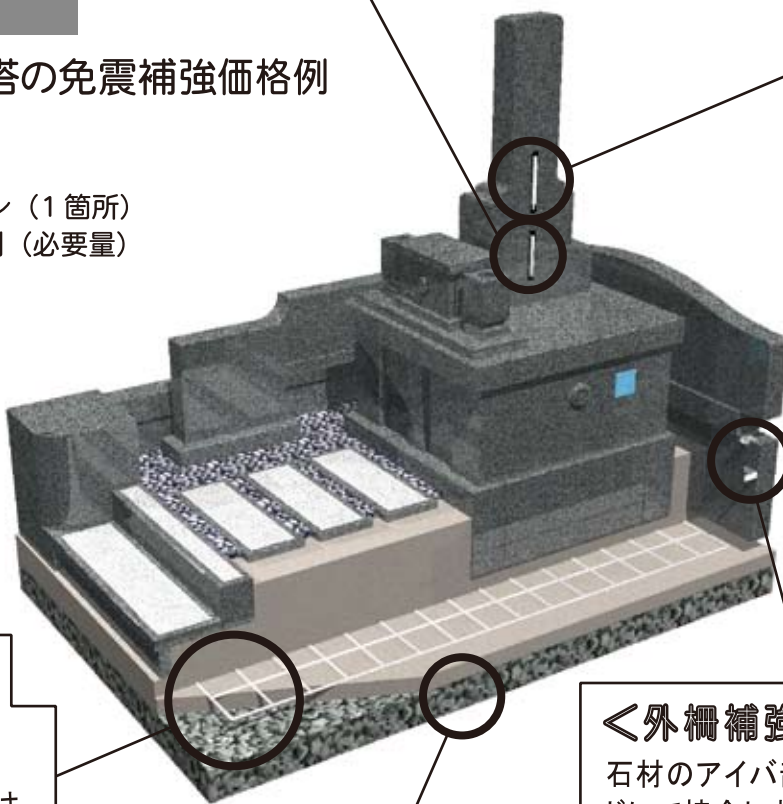
コンクリートは圧縮には強いが引張る力や曲げる力に対しては弱いという性質を持ちます。その弱点を補うために基礎コンクリートの中に鉄筋を配置します。

●割栗石

12～15cm程の碎石を割栗石といいます。基礎コンクリートの下に敷き、突き固めて地盤を強固にするため使用します。

＜外柵補強＞ ●アイバ接合

石材のアイバ部分は弾性シリコンボンドにて接合します。接合部材の形状により、ダボピン・アルミジョイント・L字型金具などを使用し、地震による部材の開きや崩壊を強固に防ぎます。



町名 散歩

第十七回

川端町

博多座船乗り込みでご存じ博多川。その東岸に位置する『川端町』の最寄り駅は福岡市営地下鉄中洲川端駅です。駅北側の下川端町には博多座・アジア美術館・博多リバレインといった再開発施設が建ちならび、南側の上川端町には博多川端商店街が賑わいます。商店街の南端へと足を伸ばせば、博多総鎮守櫛田神社。今回はそんな川端地区を散歩します。

この町名は那珂川の支流である博多川の川淵にあることから由来します。昔は上中下とわかれていた川端町ですが、空襲で全町が消失し、戦後の区画整理で下川端町の中に入り、昭和大通りの新設によって町の一部が南へ移動。また、下川端町と上川端町にまたがる博多川ベリ縦筋は新川端町といい、やはり上下にわかれていました。

なんだかゴチャゴチャになってしまいましたが、現在『川端』と言えればこの一帯をひっくり返して指す地名であり、そもそも川端町は博多リバレインの敷地となっています。

江戸時代には、旅日雇奉公人支配屋やロウソク屋、上方問屋などがこの町を代

表する大店として存在しましたが、明治から大正にかけては菓子屋、鮮魚問屋、呉服店など大小の商店が軒をならべ、博多川端通りの名で福博中心の商店街へと発展。博多で最初に栄えた商店街として知られます。

今や博多の商店街のあちこちで耳にする晩秋名物行事『せいもん払い』は、博多商人の心意気を示す、年に一度の大安売り！ということで明治十二年、下新川端に住んでいた博多のアイデアマン・呉服商兼業漬物商「金山堂」と八尋利兵衛さんにより発案されました。また利兵衛さんは博多川の土堤を東京隅田川向島土堤のような桜の名所にしよう！ということとで明治二十八年、河川改修をも発案し、諸費捻出のため『住吉宮高灯籠』※を建て、その四面に広告を募りました。

博多の有志を総動員したこの新名所計画は博多人の勤労奉仕で着々と仕上がったものの完成式の明治三十三年五月、奇しくもこの月に勃発した北支事変や日露戦争突入により夢半ばとなつてしまいました。このときの高灯籠は昭和三十六年十月、中洲の清流公園に移され、今も現存しています。

さあ、利兵衛さんの夢のあと、博多の元気の素、川端町を訪れてみませんか？

(※『住吉宮高灯籠』石工：十代目国松大次郎)

知識の泉

キリスト教

一五四九年、フランシスコ・ザビエル（カトリック教会の司祭、イエズス会所属）の鹿児島渡来。このとき初めてキリスト教が日本へ伝えられました。当時、日本は戦国時代でしたが、教勢は九州から西日本、近畿地方にまで及び、五十年間で信者は約四十五万人に達したと言われています。しかし豊臣秀吉による弾圧、さらに一六一二年に始まる禁教政策や一六三九年以来の鎖国により、布教は途絶えました。

次にキリスト教が伝えられたのは、一八五九年の開国以後です。十九世紀中にカトリック教会、プロテスタント諸教派、正教会など、伝統的なキリスト教会のほとんどが、日本に伝道して教会を立てました。

キリスト教が日本の社会や文化に与えた影響には、次のようなものが挙げられます。クリスマスといった年中行事、キリスト教会での結婚式やキリスト教系ミッションスクールなど。また医療、身障者施設、孤児院などの社会事業にもキリスト教の貢献は大きいと言われています。日本におけるキリスト教信者数は、日本総人口の約1%ほどです。しかし純粋な信仰とは別に、

キリスト教の文化や行事は、日本国民の間に浸透しているのです。

最後にキリスト教のお墓について触れておきましょう。

墓地は、教会が独自に所有していたり、教団が地区ごと墓地を所有していることが多く、またカトリック教会では、納骨堂を備えている場合もあります。

お墓は、個人墓が一般的とされていますが、最近では家墓も見られるようになっていきます。形に決まりはないのですが、線香を焚かずにロウソクを立てるため、香炉の代わりにロウソク立てが設置されます。彫刻する文字は、個人墓の場合には洗礼名、家墓の場合には家名を彫刻します。また聖書の一節や好きな言葉を彫刻する場合もあります。共通点を挙げるならば、どこかに十字架が彫刻されることです。石材は、墓石用としては使われなかった大理石や赤御影石を使うこともあるそうです。

キリスト教とキリスト教のお墓について少しお話ししましたが、墓所を訪れた際には、ご先祖様や故人を想うとともに、お墓のデザイン、形、彫刻されている文字や石材にも想いを馳せてみてください。



